

Chapter 01:プロローグ

主人公の青年三原（ミハラ）の実家は、靴を販売する店舗を運営していた。しかし事業が厳しい状況の中、父親が突然の他界。止む無く店舗を運営する会社を引き継ぐことになった三原だった。しかし、店の売上はどんどん低迷。新しくネット販売を考えて着手するが、それも経費過多になってしまい途方に暮れていた。ある日、「もうすべてを止めてしまおう・・・」と公園で投げやりになっていた時、福山（フクヤマ）と言う中年紳士と出会う。不思議な雰囲気を持つその男性からアドバイスをもらいながら、三原はインターネットでのビジネスを本格化していくのだった。

Chapter 01

「プロローグ」



そこのあなた、何か悩んでいることでもあるのですか？
お節介だとは思ったのですが、
今にもその池に飛び込みそうな顔をしているので気になりましたね。



えっ!? そんな風に見えますか・・・。
実は親父が突然病死してしまい急遽私が事業を引き継ぐことになりました。



それはお気の毒に。
どんな事業をしておられるのかな？



靴屋を何店舗か経営しています。
でも、例に漏れずネットや大型店に客を取られて、
収益がどんどん悪化するばかりで・・・。



そうですか。
商売はなかなか難しいものですね。



アドバイスを全くもらえないまま、今日まで手探りでがんばってきました。
ネット通販にも挑戦しましたが、上手くいなくて・・・



なるほど、それで思い詰めた顔をね。



もうどうして良いのか・・・。



一つ聞いてみたいのですが、あなたは靴が好きですか？



好きかって聞かれると・・・
特別好きではないですね。



それでは難しいでしょうね。



え!? どういう意味ですか？



デフレ・スパイラルが進行していく社会では、商品はどこで買っても同じ。
そうならば、やはりいちばん安価なお店やネットで買うものですよ。



それはそうですが・・・。



そうになると、売る側も自分の商品が好きでなければなりません。
そして専門性などを徹底的に伝えていかなければ、
ファンの獲得はなかなか難しい時代です。



うう・・・痛いところを突いてくるなあ。

Chapter 01

「プロローグ」